

# 農事組合法人サカタニ農産の概要

## 1 所在地及び代表者氏名

富山県南砺市上川崎 139-3  
農事組合法人サカタニ農産  
代表理事 奥村一則



## 2 これまでの経営の歩み

昭和42年 サカタニ農産（任意組合）設立  
昭和47年 法人化し、(農)サカタニ農産となり、  
借地型大規模経営を目指す。  
昭和60年 減農薬減化学肥料米「ワールドエース」の登録商標を出願し、認可  
後、全国に販売。  
平成7年 「農林水産祭水稻部門農林水産大臣賞」, 「第24回日本農業賞大賞」,  
「農林水産祭農産部門天皇杯」を受賞。

## 3 経営概略

① 出資戸数 26戸（農産関係3社）      ② 従業員数 24人  
③ 総売上 41,100万円（農産関係3社）      ④ 資本金 4,100万円

## 4 経営の現況

### (1) 地域に根ざした借地農業による規模拡大

(農)サカタニ農産は、旧福野町を拠点とし、借地及び作業受託による稲作規模拡大に積極的に取り組んできた。隣接する砺波市と小矢部市には(有)ヤマダ農産と(有)やまだカントリー・オヤベを分社化し、それぞれの行政区域内の農地を借地し、(農)サカタニ農産と連携して事業展開を行っている。これら3組織はサカタニグループとして活動しており、全国屈指の経営規模と経営感覚に優れたプロ農業集団としての実践活動は、砺波地域はもとより県内の地域営農集団の先駆者である。

#### サカタニグループ

農業生産法人 (農) サカタニ農産  
(有) ヤマダ農産  
(有) やまだカントリー・オヤベ

関連企業 (有) サカタニ造園土木

### (2) 減農薬・減化学肥料米「ワールドエース」の生産

消費者の減農薬、減化学肥料志向の高まりや、環境への負荷軽減、また気象変動に左右されない、安定した収量・品質の維持確保に向け、堆肥と有機質肥料の施用を中心とした減農薬のオリジナル自社ブランド「ワールドエース」の栽培方法や技術を研究し、生産している。

消費者ニーズに合致した農業生産を進めるとともに、米以外の各種農産物についても「サカタニブランド」として周年販売し、付加価値の高い農業の確立を目指している。

### (3) 地域社会に根ざした多角経営

サカタニグループの経営テーマは「100年生き残り」であり、そのために主穀作以外にも新たな作目の導入により経営の多角化を図っている。生産調整については、大豆・大麦を中心に対応しており、平成5年からは新たにリンゴ栽培に取り組んでいる。また、水稲育苗ハウス跡地を活用したハウス桃や小松菜、露地における野菜の作目にも取り組んでいる。

## 5 経営規模

サカタニグループの経営面積の推移

(単位：ha, 戸)

	S47	S57	H 1	H 5	H10	H15	H20	H23	H24	H27
経営面積	36.7	119.5	209.1	220.3	227.0	262.0	301.7	333.4	338.9	362.4
水 稻	36.7	82.1	118.3	164.0	174.9	181.8	207.1	222.7	229.9	264.2
大 麦		37.4	39.6	36.0	0.0	44.0	59.8	52.1	66.7	61.2
(麦 受託)						(7.0)	(7.0)	(10.8)	(7.6)	(7.0)
大豆 一作			51.2	19.0	38.5	26.7	22.6	34.0	30.1	11.3
二作						(37.0)	(32.1)			
(大豆受託)					(6.1)	(1.4)	(5.5)	(0.5)	(0.5)	
果樹(りんご, 桃)				1.3	1.6	2.4	2.8	2.7	2.7	2.7
ハウス									1.8	1.8
野菜							4.6	14.0	14.0	18.0
その他					5.9	7.1	4.5	9.7	9.7	6.4
受託農家戸数	37	135	211	270	353	418	430	504	509	561

## 6 経営理念

### (1) 地域と共生する持続的経営 . . . . .《二人のお客様》 . . . . .

農業(グリーン産業)を通じて社会に貢献することを第一目標とし、一つには、農業によって社会人として的人格形成を図り、地域人として自立すること。二つには、農業を産業として位置付け、規模拡大による効率化を図り、持続性のある農業経営を目指している。

このため、経営を支えて下さる『二人のお客様(農地を貸して下さる農家と生産物を買って下さる消費者の皆様)』に愛されることが必要であり、農業生産法人としての責任を果たし、地域と共生できる経営であることが土地利用型農業には不可欠と考えている。

### (2) 若い力の育成と活用 . . . . .《心を耕す産業》 . . . . .

「若者に魅力ある農業経営」をと、次世代を担う有能なリーダーとなる若い人材を育てることを大切にし、初代代表の「農業は心を耕す産業であり、まず人づくりが不可欠」の信念のもとに努力している。

### (3) 美味しい米づくりは、土づくりから . . .《農地は大切な資源》 . . .

資源である農地(水田)を大切にし、土づくりをモットーとして、収穫した後は必ず農地にお返しすることを守り、人づくりと合わせて土づくりをしている。

## 7 将来展望

今後は、地域に融合しながら稲作を中心に1,000haの経営を目指したいと考えている。また、稲作のみに頼らず複合部門を取り入れ、出来ないことも出来るように努力し、市場ニーズに合った生産を行うことが課題となっている。

さらに、農家が我々とともに多様な人々と連携しあい、一村一農場づくりを目指し、砺波平野全体が農村マーケットになるような取組みができれば楽しいと思っている。